



かけがえのない幼少期に 心は、どう育つの？



何が好きなのか、どう思うのか。虫は気持ち悪いものなのか、生きることによって一生懸命の美しいものなのか。ご飯は楽しく食べるものなのか、叱られて食べるものなのか、など、幼児期は様々な価値観が生まれていきます。

こつがポイント



① 保護者が使う言葉が大事!

子どもの心を育てるには保護者の使う言葉がとても大切です。「元気」「楽しいね」「わくわく」とハッピーで前向きな言葉を使いましょう。「嫌だ」「辛い」など怒り、悲しい言葉を連呼すると、子どもの心の発達に影響します。

☑ 感謝のことは「ありがとう」を1日1回以上は使いましょう。3歳以降「ありがと！」と素直に言える子どもに育ちます。

☑ 「大好きだよ」の言葉は、ここぞというときに使いましょう。自分は認められているんだと思い、自信につながります。

☑ 大人が直接言うよりも人形などを使って心の話をしましょう。「ぶった！えーん」「大丈夫？いい子いい子～」「ありがとう」

② いっぱい泣いていいよ!

「泣くのはダメ！」と我慢させるよりも、思い切り泣いて、次の行動に向かえる心を育てましょう。



0～2歳児：泣くのが仕事 抱きしめて気持ちを共感

3～5歳児：3分待って 落ち着いたたらゆっくり話します